

は し が き

全国教育研究所連盟では、昭和32年度から33年度にかけて、勤労青少年教育ならびに道徳教育に関する共同研究を進めてきた。そのうち、道徳教育に関する共同研究の内容は、道徳指導上の問題点調査と道徳的価値観調査を実施するとともに、道徳指導の実践記録を収集することであつた。

この共同研究の一環として、本研究所が、昭和32年度に新潟・西越・相川・加茂の4地区で行なつた研究の結果は、昭和33年7月「道徳教育上の諸問題と道徳指導の実践記録」として発表した。その後、昭和33年12月、長岡・柏崎・新津・村上・栃尾・直江津・津南の8地区、44か校の小・中・高等学校の児童生徒・父母・教師7547名について第2次道徳的価値観調査を実施した。その調査結果に考察を加えてまとめたのがこの研究紀要である。

いうまでもなく、道徳教育は学校・家庭・社会を通じてじゅうぶんに行われ、かつそれらの間に一貫性が保たれることにより、はじめてその徹底を期することができるものであつて、児童生徒・父母および教師の道徳的価値観の実態をいろいろな角度から分析したこの研究紀要は、日夜教育実践に励んでおられる小・中・高等学校の先生がたはいうにおよばず、その他の教育関係者、および子をもつ父母のかたがたにとつても、よい参考資料になるであらうと信ずる。ひろく御活用いただくとともに御批判を賜わるならば幸いである。

さいごに、この調査研究に御協力くださった各小・中・高等学校ならびに関係各位に衷心より謝意を表するものである。

昭和34年7月30日

新潟県立教育研究所長

柴 田 美 穂